

みんなで力を合わせて！

第90回白石市民体育大会

10月8日、「第90回白石市民体育大会」を白石川緑地公園陸上競技場で開催しました。前日の強風により大会が1日順延し、7自治会が欠場となつての開催となりました。

快晴となつたこの日は、17地区から約1,200人が参加。昨年総合優勝の柳町地区の選手宣誓で競技がスタートし、恒例の釣りの競走や玉入れ、パン食い競争、綱引き、長縄跳び、デカパン競争、200歳リレーなど、全ての種目で熱戦が繰り広げられました。

90回大会にふさわしい熱戦は、1点差で追う鷹巣を振り切った柳町が、見事2年連続の総合優勝を果たしました。どの地区も大きな声で声援を送るなど、子どもからお年寄りまで地区民間の交流と絆を深めていました。

参加者は「玉入れでは練習の成果が出せて良かったです。地域の人と一緒に体を動かして気持ちよく汗をかきました」と話してくれました。



1\_掛け声を合わせてタイミングよく長縄を跳ぶ西益岡チーム 2\_ムカデ競争でゴールを目指す鷹巣チーム 3\_最後の種目200歳リレーで激走を見せる柳町アンカー

夢へ Hop! Step! Jump!

全日本マスターズ陸上競技選手権で優勝

9月22～24日、鳥取県で開催された「第39回全日本マスターズ陸上競技大会」で、巨泉猛さんが三段跳び(60～64歳のクラス)において、10m99の記録で1位に輝きました。大学まで短距離の選手だった巨泉さんは、40歳を過ぎて競技を再開。マスターズ2度目の挑戦となった今回は、幅跳びでも3位と健闘しました。

巨泉さんは、「楽しみながら続けてこられたことが良い結果につながりました。来年は連覇を狙いたいです」と笑顔で話してくれました。



▲獲得した2つのメダルと賞状を手にする巨泉さん

プロの熱戦に大興奮！

ベガルタ仙台の試合を子どもたちが観戦

10月7日、市内小学生やサッカースポーツ少年団員など約140人が、ベガルタ仙台ホームゲームに招待されました。このうち約100人は株式会社ベガルタ仙台が復興支援活動として、約40人は市内に太陽光発電所を開発・建設したX-Elio Japan株式会社(エクセリオジャパン)が地域貢献活動として招待。試合直前には、団員がエスコートキッズを務め、選手と手をつなぎながらピッチに入場しました。エスコートキッズの団員は「選手に会えてうれしかったです」と話していました。



▲ベガルタの選手をエスコートする子どもたち

待ちに待った新米の季節！

白石産ササニシキ新米試食会

10月5日、食味日本一の「しろいし米」復活を目指す「宮城白石産ササニシキ復活プロジェクト」が、鎌先温泉木村屋で新米試食会を開催しました。

試食会には、市内の旅館経営者や関係事業者など約50人が出席。発足から3年目の今年は、プロジェクト参加者が9人に増え、収穫したササニシキは食味も収量も昨年以上の出来栄え。試食した人は「香りがよく、さっぱりとした甘みを感じました」と感想を話していました。



▲炊きたての新米ササニシキを堪能する参加者たち

ゴールを目指して「激坂」を激走！

第32回しろいし蔵王高原マラソン

9月16日、南蔵王野営場を発着点とする「第32回しろいし蔵王高原マラソン」を開催しました。全国屈指のアップダウンを誇る「激坂」に全国から集まったランナー1,315人が挑戦。今大会では20km(50～59歳)男子、10km(30歳～49歳)女子で大会新記録、10km50歳以上女子で大会タイ記録が樹立されました。

ランナーたちは予想以上のアップダウンに苦しそうな表情を浮かべながらも、沿道からの声援を力に完走し、健闘を称えあっていました。

【本市の出場選手で3位以内の入賞者】(敬称略)

- ・3km小学生男子(4年生以下)3位 榊原元翔
- ・3km小学生女子(5・6年生)3位 佐藤優海理
- ・3km中学生女子1位 杉虹海、3位 平塚悠月
- ・5km中学生男子1位 榊原巧、2位 渡邊賢
- ・5km高校生～29歳以下男子  
2位 井上寛幸 3位 谷津晴輝
- ・5km50歳以上女子2位 佐藤真紀



1\_5km中学生男子1位の榊原くん 2\_3km中学生女子1位の杉さん 3\_20kmの部に出場の選手が一斉にスタート